

試験結果は以下のとおりであることを証明する。

令和 4 年 11 月 9 日



接合部性能試験成績書

1. 評価名称	薄板軽量形鋼造用接合金物「WSHD-120」
2. 目的	①試験降伏耐力と終局耐力及び最大耐力、2/3 最大耐力の信頼水準 75%の 95% 下限許容限界、初期剛性の平均値を求める ②試験結果及び接合金物に使用する接合具の性能値より「薄板軽量形鋼造建築物設計の手引き第 2 版(一般社団法人日本鉄鋼連盟 2014 年発行)及び「平成 12 年国交省告示第 1641 号第 12 第 4 号」に基づき、設計時に使用する各許容耐力値および初期剛性を確認する
3. 試験内容	たて枠材端部接合部(アンカー型)の引張試験 なお、準拠する試験方法は 2007 年枠組壁工法建築物構造計算指針による。
4. 試験体 仕様	1) 接合金物 「WSHD-120」 材質：SS400(JIS G 3101) 寸法：(外形)63mm×70mm×485mm 板厚 t=4.5mm 接合具用孔 44-φ6.2mm 「底板」(本体と溶接) 材質：SS400(JIS G 3101) 寸法：54mm×65.5mm×12.0mm、孔径 φ30mm 「平座金」 材質：SS400(JIS G 3101) 寸法：44mm×44mm、t=6.0mm、孔径 φ23mm 2) 接合具 「建築構造用ドリルねじ(HEX 6×25)」×44 本 材質：冷間圧造用炭素鋼線 寸法：φ13mm L=25mm 頭部径 φ6.0mm 機械的性質：浸炭焼入れ焼戻し、表面硬さ HV560~680 硬化層、 0.15mm=HV450 以上 0.28mm=HV450 以下、心部硬さ HV330~400、ねじり強 さ 14.0N・m 以上 3) 枠組材料 「たて枠材」2 丁

	<p>種類：89LCN16</p> <p>4) アンカーボルト・ナット</p> <p>M22 アンカーボルト×1本</p> <p>材質：SD490(JIS G 3112)</p> <p>M22 六角ナット×2(ダブルナット)</p> <p>材質：強度区分 5J(JIS B 1220)</p>
5. 試験結果	<p>信頼水準 75%の 95%下限許容限界：</p> <p>試験降伏耐力 <u>120.03</u> kN</p> <p>2/3 最大耐力 130.54 kN</p> <p>終局耐力 <u>173.21</u> kN</p> <p>最大耐力 195.81 kN</p> <p>平均：初期剛性 <u>65.3</u> (kN/mm)</p>
6. 評価結果	<p>アンカーボルト(SD490 M22)</p> <p>短期許容耐力：143.26kN、最大耐力：<u>181.27</u>kN</p> <p>ドリルねじ耐力(44-φ6.0)</p> <p>ねじ頭側板厚 4.5mm→ねじ先側板厚 1.6mm+1.6mm</p> <p>短期許容耐力：3.39 kN × 1.5 × 44 = 223.74kN</p> <p>底板溶接部短期許容耐力：149kN</p> <p>上記試験結果及び指定アンカーボルト、ドリルねじ、溶接部の許容耐力より、</p> <p>本ホールダウン接合金物の短期許容引張耐力の上限を 120.03kN、</p> <p>終局耐力 173.21kN、最大耐力 181.27kN とした。</p> <p>なお、本許容耐力には使用環境等による調整係数を乗じていない。</p> <p>また、ホールダウン金物+アンカーボルトの初期剛性は 65.3 (kN/mm)で、</p> <p>ホールダウン金物の初期剛性は 83.6(kN/mm)とする。</p>
7. 試験場所	株式会社カナイ開発試験センター(埼玉県八潮市浮塚 507-1)
8. 試験日時	2022年8月29日(月)
備考	<p>本評価結果の利用に当たっては以下の点について留意すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 接合するたて枠材は 2-89LCN16 以上の断面を有するものとする。 ・ 使用するアンカーボルトは SD490 M22(有効断面積 292 mm²以上)とする。 ・ アンカーボルトの基礎への定着およびコーン状破壊への安全性の確認は本評価の対象外とする。